

あせ せ 100th

TO THE NEXT 100

50周年記念誌

鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会





50th anniversary

鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会
50周年記念



日本スポーツ少年団団員綱領

1. わたくしたちは、スポーツをとおして健康なからだと心を養います。
1. わたくしたちは、ルールを守り、他人に迷惑をかけない、りっぱな人間になります。
1. わたくしたちは、スポーツによって、自分の力を伸ばす努力をします。
1. わたくしたちは、スポーツのよろこびを学び、友情と協力を大切にします。
1. わたくしたちは、スポーツをとおして世界中の友だちと力をあわせ、平和な世界をつくれます。

日本スポーツ少年団指導者綱領

1. わたくしたちは、次の時代を担う子どもたちの健全育成のために努力します。
1. わたくしたちは、スポーツのもつ教育的役割を果たすために努力します。
1. わたくしたちは、子どもたちのもつ無限の可能性を開発するために努力します。
1. わたくしたちは、つねに愛情と英知をもって子どもたちと行動するよう努力します。
1. わたくしたちは、スポーツを愛する仲間とともに世界の平和を築くために努力します。



鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会

CONTENTS

日本スポーツ少年団団員綱領・ 日本スポーツ少年団指導者綱領	1
目次	2~3
ごあいさつ(会長 中野 剛)	4
祝辞	
□南日本新聞社代表取締役社長	5
□鹿児島県知事	6
□鹿児島県ソフトボール協会会長	7
□鹿児島県スポーツ少年団本部長	8
□デンソーブライトペガサス 川畑 瞳	9
創立50周年記念祝賀会	10
写真で見る	
第50周年記念大会	12~16
過去大会ほかスナップ写真集	17~20
プログラム表紙と記事	
プログラム表紙	
第41回大会~第44回大会	22
第45回大会~第48回大会	23
第49回大会~第50回大会	24
南日本新聞掲載記事	
第41回大会	25
第42回大会	26
第43回大会	27
第44回大会	28
第45回大会	29~30
第46回大会(中止)	30
第47回大会	31
第48回大会	32
第49回大会	33
第50回大会	34

チーム紹介

少年団名・創立・写真と名簿・チームの目標など

鹿児島地区	36~58
指宿地区	59~62
川辺地区	63~67
日置地区	68~73
川薩地区	73~78
出水地区	78~85
始良地区	86~90
曾於地区	91~94
肝属地区	95~104
種子島地区	105~106
屋久島地区	107~108

50周年に寄せて

各地区より	城西地区(鹿児島市)	110
	中央地区(鹿児島市)	111
	南部地区(鹿児島市)	112
	谷山地区(鹿児島市)	113
	東部地区(鹿児島市)	114
	指宿地区	115
	川辺地区	116
	日置地区	117
	川薩地区	118
	出水地区	119
	始良地区	120
	曾於地区	121
	肝属地区	122
	種子島地区	123
	屋久島地区	124
寄稿文ほか		125~132

資料編

令和6年度総会資料ほか

運営方針	134
登録について	135
少年団・団員・指導者数の推移	136
大会表彰	137~139
登録団・代表指導者名簿	140~141
会則	142~143
役員紹介	144~145
歴代の成績	146~152

協賛広告



鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会50周年記念

50th anniversary

ごあいさつ



鹿児島県ソフトボール
スポーツ少年団連絡協議会
会長

中野 剛

鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会は昭和49年の創設で、翌昭和50年3月には初となる県ちびっこソフトボール大会を開催しています。

半世紀、50年にわたり活動を続けられたのは、児童や保護者、指導者、OBなど皆さまの努力や、学校や地域住民の方々の深いご理解・温かいご支援の賜物であると感謝しております。当協議会の活動に携わった全ての皆さまに改めて御礼申し上げます。

私も大明丘ソフトボールスポーツ少年団員として、「県ちびっこソフトボール大会」の第9回大会に出場し、そのときのことを今でも鮮明に覚えています。3人の子供たちも同ソフトボール部に所属し第37回・第39回・第40回大会に出場するなど、少年団の活動を通して親子で最高の思い出を築けました。

昔と今では協議会や児童らを取り巻く環境が大きく変化しております。これまで指導者として携わってまいりましたが、今年同協議会の会長に就任したことを機に今後は少年団の活動を継続していけるよう尽力したいと思います。

県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会は今年50周年を迎えますが、次なる100周年のステップに向けて大切な一歩を踏み出します。これまで培った伝統はしっかり受け継いで改革も行いながら次のステージに向かって皆で歩みを共にし、これまで以上に発展できるよう努力してまいります。

現在、児童数の減少や家庭・自然環境の変化による団員数減少の加速など、少年団の存続が危惧されています。今後は少年団活動の原点に戻り、今抱える課題を一つ一つクリアしながら充実を図り、限りない可能性を秘めた子供たちと希望と勇気を持って新たな時代をつくるべく課題に取り組んでまいります。

同協議会の更なる発展に向け、ソフトボールを通して青少年健全育成の道標となるためにも、皆さまには一層のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、記念誌発行に当たりご協力いただきました方々に感謝申し上げますとともに、この記念誌が鹿児島県のソフトボール少年団の活動や交流資料などに幅広く活用いただけますことを願っております。



鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会50周年記念

50th anniversary

「創立50周年記念誌」発刊に寄せて



南日本新聞社
代表取締役社長

佐潟 隆一

鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会創立50周年、誠におめでとうございます。また、これまで歩んできた歴史とそのご功績を収めた記念誌が発刊されますことを心からお喜び申し上げます。

昭和49年度の創立以来、ソフトボールを通して子どもたちの健全育成に尽力され、大きく貢献されてきました。長きにわたって、県内各地域で活動を続けてこられました多くの指導者や関係者の皆さまに深く敬意を表します。

昨今では少子化が一層進む中で、チーム編成などご苦勞も多いことかとお察しいたします。しかしながら、子どもの心身を育成するこの活動は、チームのみならず地域にとりましても、活気を生み出し大きな活力につながっています。

ご承知の通り弊社は、鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会とともに「鹿児島県ちびっこソフトボール大会」を主催し、毎年2月から3月に開催しております。大会は多くの方々に支えられ、このたび51回目を迎えます。通称「県ちび」で多くの県民に親しまれ、今ではチーム一丸のはつらつプレーや保護者らの大きな歓声が早春の風物詩となっています。今回も熱戦の様子が南日本新聞紙面を大いに賑わせてくれることでしょう。

結びに、鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会の活動が一層充実、発展されることを期待しますとともに、関係者の皆様のご健勝を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



鹿児島県知事

塩田 康一

鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会が創立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会におかれましては、昭和49年の結成以来、50年の長きにわたり活動を続けられ、“子供たちの健康でたくましい体とゆたかな心を育てましよう”という運営方針のもと、スポーツ少年団活動を通して青少年の健全育成及びソフトボール競技の普及・発展に大きく貢献してこられました。歴代の会長をはじめ、関係の皆様のご長年にわたる御尽力に、深く敬意を表しますとともに心から感謝申し上げます。

また、「県ちび」の愛称で親しまれる鹿児島県ちびっこソフトボール大会は、昭和50年3月に開催された第1回大会から、今年で50回を数え、これまでに多くの優秀な選手が本大会で活躍してきており、今後も、国内外で活躍できる選手が誕生することを期待しております。

昨年10月に、「熱い鼓動 風は南から」のスローガンのもと、本県で開催された「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」は、県選手団の皆様が活躍する姿が、県民の皆様にご夢と感動をもたらし、「コロナ禍からの再生と飛躍」を象徴する大会として、皆様の心に残るすばらしい大会になりました。

ソフトボール競技につきましては、南九州市と指宿市の2市で開催され、本県選手団をはじめとする国内トップレベルの各都道府県代表チームによる熱戦が間近で繰り広げられたことは、今後の本県のスポーツ活動につながる良い刺激となり、かごしま国体を契機として、ソフトボールスポーツ少年団の更なる競技力の向上が図られることを期待しております。

結びに、創立50周年を機に、鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会がますます発展されますことと、関係の皆様のご健勝・御活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



鹿児島県ソフトボール協会
会長

中原 重信

鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会が創立50周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

歴代会長をはじめ、現会長を中心に日頃より子供達の体力づくりからスポーツ振興・発展にご尽力されておりますことに深甚の敬意を表する次第であります。

殊に「県ちび」と親しまれた鹿児島県ちびっこソフトボール大会が今年第50回を迎えました。昭和50年21チームで催された第1回大会からピーク時の平成20年は242チーム・3543人もの選手で催され、春の恒例行事として広く鹿児島県民に認識されております。新聞にも大きく取り上げられ、選手のその後の活躍にも目を見張るものがあります。青少年を取り巻く環境は年々厳しくなっております。地域の絆が薄れつつある今こそ、ソフトボールを通してお互いの親睦や交流を深め、真の魅力と楽しさを知り、培われたチームワークで地域が盛り上がっていくものと信じています。

結びに、鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会の皆様方にはこれまでと変わらぬご指導・ご鞭撻を賜り、ますますのご発展を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



鹿児島県スポーツ少年団
本部長

肥後 昭文

鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会が創立50周年を迎えられるにあたり、心からお祝い申し上げます。

貴会におかれましては、昭和49年の発足以来、半世紀にわたって本県のソフトボール少年団活動を通じた児童・生徒の健全育成や指導者育成・地域貢献等に力を尽くしてこられました。これもひとえに、これまで貴会に携わってこられた関係の皆様方による不断の御努力と御指導の賜と、深く敬意を表しますとともに心から感謝申し上げます。

また今春、第50回の記念大会を迎えた「鹿児島県ちびっこソフトボール大会」は、県民になじみ深く親しまれる大会として定着し、子どもたちの心・技・体の向上とともに、仲間づくりやフェアプレーを学ぶ貴重な交流の舞台となっています。今後もソフトボール競技を通じて「スポーツで人々をつなぎ地域づくりに貢献」する存在として、大きく期待するところです。

本県のスポーツ少年団は、令和5年度の登録状況で、団体数971団体で全国5位、団員数16,165人で全国9位と上位に位置しています。しかし、全国的な少子化・人口減少の加速化の影響もあり、今後の縮小傾向も否めません。また、スポーツ庁は中学校の運動部活動改革の取り組みを始めており、地域連携・地域移行の受け皿（運営団体・実施主体）の一つとしてスポーツ少年団への期待も高まるなど、新たな転換期を迎えようとしています。地域の実情に応じながら、将来にわたって子どもたちが継続してスポーツ活動に親しんでいけるよう、地域のスポーツ環境を整えることが重要になってきています。

貴会におかれましては、この創立50周年を契機として、より充実した活動を展開されますとともに、青少年の健全育成に加え、本県における生涯スポーツ、競技スポーツの更なる普及・振興に寄与していただければ幸いです。

終わりに、鹿児島県ソフトボールスポーツ少年団連絡協議会の今後のますますの御発展と、関係の皆様のお健勝・御活躍を祈念しまして、お祝いのことばといたします。